有明海水産資源回復技術確立事業*

アゲマキ増養殖技術開発試験（天然アゲマキ調査）

土井 大生

有明海の重要な水産資源の一つであるアゲマキ*Sinonovacula constricta*は，1989年から原因不明の大量斃死が発生し，1994年以降天然資源が激減している。このため，資源回復を目的として，1996年度から種苗生産及び放流技術の開発に取り組み[1)]，特に2009年度からは本事業により，放流技術開発の一環として，稚貝の大量生産・放流を行っていた。これら一連の事業では，放流によって母貝集団を創出し，再生産サイクルの構築を目指していることから，その効果を把握するため天然アゲマキの生息状況調査を行ったので報告する。

方　法

2024年8月～10月に，有明海佐賀県沿岸域の48地点で，1m×100mの踏査を行い，アゲマキの巣穴開口部を計数した。また，各地点30個を上限としてアゲマキを採取し，殻長を測定した。

結　果

調査結果を図1に示す。昨年[2)]と同様に，天然個体の生息が確認されず，資源状況は極めて厳しい状況であった。

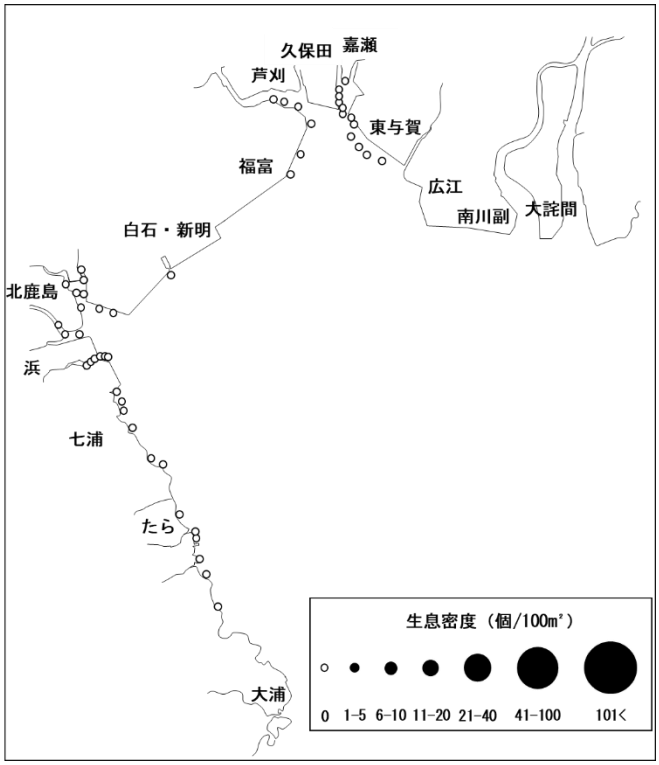

図１　天然アゲマキ調査結果

文　献

1)　佃　政則・神﨑博幸・津城啓子・福元　亨・梅田智樹・荒巻　裕・伊藤史郎（2017）：佐賀県有明海沿岸におけるアゲマキ分布の変遷，佐有水研報．（28），47-49.

2)　重久　剛佑（2023）：有明海水産資源回復技術確立事業　天然アゲマキ調査　，佐有水業報．(5)，25.